

ゴルフ場は地域活性化の重要な推進の場



おくのぎのぶお
奥ノ木 信夫

かわくち
川口市長(埼玉県)



うえのまさみ
上野 正三

きたひろしま
北広島市長(北海道)



きよとうまさし
清藤 真司

こうなん
香南市長(高知県)



とみだしげき
富田 成輝

かみ
可児市長(岐阜県)

司会・コーディネーター

ほそかわ たまお
細川 珠生

政治ジャーナリスト

ゴルフ場の所在する自治体は、アクセス道路の整備・維持管理や災害防止対策、農薬・水質調査をはじめとした環境対策、消防・救急など、ゴルフ場特有の行政需要に苦慮しています。一方、ゴルフ場の休業日には、コース内の池を利用した自然体験学習の実施、ゴルフ場関連施設を利用した市民祭りの開催など、市民の交流の場としているほか、ゴルフ場自体を大規模災害時における広域避難場所として位置付けるなど、ゴルフ場を活用した地域づくりを行っています。また、交流人口の拡大や地域経済の活性化に向け、ゴルフ関係団体とも協力しながら地域振興に取り組んでいます。

座談会では上野・北広島市長、奥ノ木・川口市長、富田・可児市長、清藤・香南市長にご出席いただき、それぞれの都市に所在するゴルフ場の特徴や支援内容、ゴルフ人口の拡大に向けた取り組み、ゴルフ場が果たす地域貢献の在り方などについてお話しいただきました。

(本文中の役職名・敬称は一部省略しています)

全国各地で推進される ゴルフ場を生かしたまちづくり

細川 私もゴルフ愛好者の一人ですが、ゴルフは家族、友人など、集団でコミュニケーションを取りながら、みんなで楽しめるスポーツだと感じています。

本日は、ゴルフ場が所在する都市の市長にお集まりいただきました。まずは、各都市にある

ゴルフ場は貴重な観光資源。
大会運営には市職員も
参加するなど、地域を挙げて
ゴルフ振興を支援しています。



上野 正三
北広島市長(北海道)

ゴルフ場の特徴やまちづくりとの関係、現在、実施している取り組みについてお聞かせください。

上野 北広島市には8カ所のゴルフ場があり、市内の総ホール数は252ホールに及びます。特に市の南西部地域は「ゴルフ銀座」と呼ばれるほど、ゴルフ場が集積的に立地しています。市内のゴルフ場の年間利用者数は、市の人口の7倍にも当たる約41万人、しかもその約20%は北海道外の観光客であることから分かるように、ゴルフは交流人口の増加・まちの活性化に大きく寄与しています。

8月には女子プロゴルフトーナメントの「北海道meijiカップ」、9月には男子プロゴルフトーナメントの「ANAオープンゴルフトーナメント」と、一流プロ選手が出場する大規模なゴルフトーナメントが開催され、全国から多くのゴルフファンが集まります。

このようにゴルフ場は本市の貴重な観光資源であり、大会運営には市職員をはじめ、多くの市民ボランティアが参加するなど、地域を挙げてゴルフ振興を支援しています。

また、ゴルフ場へのアクセス道路や交通安全施設の整備・維持管理、さらには農薬散布調査・水質検査をはじめとしたゴルフ場周辺の環境対策の実施など、積極的にゴルフ場のサポートや地域対策に力を入れてきました。

現在は、「アジアゴルフフューリズムコンベンション(AGTC)」「北海道ゴルフフューリズムコンベンション」などの各種事業・機会を通じて、近隣都市や関係団体と連携しながら、海外ゴルフターの誘客に向けた活動に力を入れているところです。



毎年、市内のゴルフ場で開催される「ANAオープンゴルフトーナメント」(北広島市)

奥ノ木 川口市は荒川を挟んで東京都北区に隣接した中核市です。かつては、鋳物工場が立ち並ぶものづくりのまちでありましたが、産業構造の変化に伴い、工場の廃業や移転が進み、大規模な住宅開発がなされました。これによって、まちのイメージも一新され、川口市は首都圏屈指の、暮らしやすいまちとして、現在に至るまで人口が増え続けています。

そんな人口密集地の川口市において、荒川の河川敷は広範囲にわたる貴重な自然空間です。川口市内にあるゴルフ場「川口市浮間ゴルフ場」は、市民にとって大切な緑地帯である、この荒川河川敷に設置されています。9ホールの「さざんかコース」、3ホールの「ゆりコース」で構成される、こぢんまりとしたゴルフ場ですが、都心に近いという利点もあり、昨年度の利用者

ゴルフ場が立地する
荒川河川敷は市民にとって
大事な緑の空間。
子どもの体験学習をはじめ、
多目的に活用しています。



奥ノ木 信夫
川口市長(埼玉県)

は4万9千人を数えました。

貴重な緑の空間ですから、ゴルフ以外にも多様に活用されています。例えば、市内の小中学生が水辺の生物などと触れ合う体験学習の機会として、定期的にゴルフ場を開放しているほか、毎年「海の日」には、100組の親子を招待し、「荒川の自然にふれあう会」を開催しています。また、ゴルフ場の隣には、野球場・ラグビー場も整備し、日々、多くの市民が利用しています。その他、地震災害が発生した際には、広域避

難場所として活用するなど、ゴルフ場だけではなく、多くの市民にとって、公益性の高い空間となっています。

富田 可児市は戦後、製造業のまちとして、自動車・航空機関連の工場立地が急速に進みました。また、名古屋市のベッドタウンとして住宅開発も大規模に行われ、全国でトップの人口増加率を記録することもありました。特別なことはしなくてもまちは潤うという、恵まれた環境下にあったためか、長らく観光施策は行われてこなかったという経緯があります。

一方、なだらかな丘陵地が続く自然地形を生かして、市内ではゴルフ場の整備が進み、現在では北広島市と同じ8カ所のゴルフ場があります。名古屋圏との交通アクセスの良さもあって、年間の利用者数は約50万人に上ります。

私は平成22年に市長に就任しましたが、当初から「これからの地方都市は観光に力を入れるべき」との問題意識を持っていました。そして、平成27年、可児市として初めての観光の基本戦略「観光グランドデザイン」を市民協働で策定しました。これにより、大きく変わったのが、ゴルフ場の位置付けです。観光交流の柱の一つに「ゴルフツーリズム」の振興を掲げたことで、市内のゴルフ場は地域の観光資源の一つに加わりました。

現在、可児市では、平成28年度からスタートした「ゴルフのまち可児活性化推進事業」の一環として、市ゴルフ協会と連携しながら「ゴルフ活性化事業」「ジュニア育成事業」など、新しい取り組みにもチャレンジしています。また、ゴルフコンペを実施する際にも、地元の食材や特産品を活用した商品を取りそろえるなど、常に



100組の親子を対象に、河川敷のゴルフ場を開放して行う「荒川の自然にふれあう会」(川口市)

地域貢献を重視しています。

清藤 温暖な気候と自然に恵まれた四国4県には70弱のゴルフ場があります。その中でトップクラスの入場者数を誇るのが、香南市内にある「土佐カントリークラブ」と香南市に隣接した芸西村にある「Kochi黒潮カントリークラブ」です。両ゴルフ場とも、プロゴルフツアーナメントの会場に選ばれるなど、四国屈指の名門コースとして知られており、香南市ではこれらのゴルフ場でプレイする権利(宿泊付)を、ふるさと納税の返礼品の一つに設定しています。

私はこの二つのゴルフ場の監査役を務めているので、内情をよく知っていますが、両ゴルフ場とも、ゴルフをする人たちの約半数は県外の愛好者です。ゴルフ場の近くにある温泉施設では、土佐弁を使わない団体のお客さんをよくお



市ゴルフ協会の協力の下、若者のゴルフ振興の一環として「ジュニア大会」を開催（可児市）

見かけしますが、皆さん、ゴルフを楽しみにこの地域にいらつしゃった人たちがばかり。ゴルフ場は交流人口の増加や地域経済の活性化に大きく貢献していることは明らかです。

県外の愛好者の皆さんには、特にこの時期（冬季）のゴルフが喜ばれていますね。冬でも温暖な気候のため、風が強くない午前中は、半袖でプレイできる。その快適さは他の地域ではなかなか味わうことができません。

もちろん、市民の中にもゴルフ好きは多く、還暦、古希、喜寿など、高齢市民をお祝いする際に、一緒にゴルフでラウンドすることもよくあります。また、近年は商工会の主催の下、収益金の一部を社会福祉施設に贈呈することを目的とした「市民チャリティーゴルフコンペ」も開催されています。本市は平成18年に5町村の合



市ゴルフ協会と連携しながら
「ゴルフ活性化事業」
「ジュニア育成事業」など、
新しい取り組みにも
チャレンジしています。

富田 成輝
可児市長(岐阜県)

併によって誕生した都市ですが、このようなゴルフを通じた交流の促進は、新市としての融合を図る一つのきっかけになっていると感じています。

ゴルフ人口の裾野拡大に向けて

細川 ゴルフは年齢に関係なく、誰もが楽しめる生涯スポーツの一つです。ゴルフ場の振興を

考えると、まずは多くの市民がゴルフを楽しめるような環境構築を図ることも重要だと思いますが、いかがでしょうか。

奥ノ木 川口市浮間ゴルフ場は、プロゴルフトーナメントを行うような、本格的なゴルフ場ではありません。にもかかわらず多くの人が利用しています。貴重な緑の空間ですから、自然の中でゆったりとプレイをしたい、というニーズがあるのだと思います。また、ゴルフをするように歩きますから、健康維持に役立てたいという思いもあるでしょう。

特に、利用が多いのが高齢の方々です。ゴルフ場が混雑しない午前中の早い時間帯からプレイするシニア愛好者の姿をよく見かけます。

富田 日本人は、氣質が真面目だから、打数にもこだわるし、マナーにも厳格です。しかし、それがスポーツとしてのゴルフの関口を狭めている原因になっている面もあるのではないかと思いますね。奥ノ木市長がご指摘されたように、自然の中でゆったりとプレイを楽しむ、という文化が根付いて初めて、大衆化への道が開かれるのではないかと考えます。

もう一つ、課題を挙げるとすると、若者のゴルフ離れ対策です。今は元気な高齢者が利用しているのですが、ゴルフ場の経営が成り立っているのですが、若者のゴルフ振興をどう進めていくのか、中長期的な目線で考えていく必要があると思います。

上野 昨年7月に初優勝を果たした女子プロゴルファーの小祝さくら選手は北広島市出身とあって、市内の子どもたちの間でも大人気です。それもあって、ゴルフのレッスンを受ける子どもも増えていますよ。

ゴルフをメインにした インバウンドの推進に向けて、 台湾をはじめとした アジア地域との航路の 確保にも努めていきます。



清藤 真司
香南市長(高知県)

市としては、子どもたちを対象としたゴルフ振興として、プロゴルフトーナメントの開催時などに、選手と市内の子どもたちが手をつないでティーグラウンドに入場する「キッズエスコート」を行ったり、プロゴルファーを講師に迎え、中学校などでスナッグゴルフ体験会を実施するなどしています。

清藤 香南市にある県立高校ではゴルフ部を創設したことがあります。結果的に長続きしま

せんでした。部活動が盛り上がるためには、熱心な教師の存在が必要ですが、残念ながらそうした教師が見当たらなかったこと。加えて、高校とゴルフ場との間の距離感を埋める、総合型スポーツクラブのような第三者機関との連携をうまく図ることができなかったことも要因でした。学校にゴルフ部を根付かせるには、その辺りの仕組みもしっかりと考えていかなければいけません。

富田 可児市では、市ゴルフ協会の協力の下、地元のプロゴルファーを招いた、「ジュニアゴルフスクール」の実施や、「ジュニア大会」の開催などに取り組んでいます。

他の競技団体の関係者から、「なぜゴルフだけを優遇するのか」と疑問視されることもありましたが、利用者に納めていただいている「ゴルフ場利用税」の一部を原資にしていると説明することで、納得してもらっています。高齢者と市内の中学・高校生と一緒にラウンドするなど、ゴルフを通じた多世代交流が図れるようになっていければと思います。

清藤 ゴルフ場整備のためには、森林の開発が必要ですが、自治体としては、その影響が地域に出ないよう、さまざまな対策を進める必要がありますが、やはりゴルフ場利用税が市の収入として入るというメリットがあるからこそ、市民の理解を得られている、という面もあろうかと思っています。その意味では、ゴルフ場利用税はゴルフ場を抱える自治体としては必要な財源だと考えています。

ゴルフを生かしたインバウンド戦略

細川 海外のゴルフ愛好者の誘客も地域経済の



四国地方屈指の名門コース「土佐カントリークラブ」(香南市)

活性化の有効な手段になると思います。

上野 空港から近い北広島市としては、ゴルフを通じたインバウンドの誘客促進に大きな可能性を感じています。平成30年度に北広島市で開催した「北海道ゴルフツーリズムコンベンション」では、東南アジアを中心に旅行者者などの関係者を多数招いて、ゴルフ場・周辺観光地の視察や商談会を開催しました。北海道といえは冬季の観光ばかりが目立っていましたが、ゴルフを通じた夏季旅行商品もアピールしていきたいと思っています。

清藤 せっかく高知空港の近くに、有力なゴルフ場があるのに、現時点ではそれを十分に海外の愛好者にアピールできていません。海外の空港との航路が確保できていないからです。私は市長に就任する前の県議会議員時代から、台湾

と高知空港とのLCCの就航を目指してきましたが、残念ながら力及ばず、という結果に終わりました。高知空港の拡張を進める計画も具体的に進んでいますので、今後はそうしたハード整備を進める中で、確実にアジア地域を中心とした国際線LCCの誘致を実現させたいと考えています。

富田 インバウンドも重要でしょうが、可児市で暮らす外国人との共生も大切です。可児市はものづくりのまちのため、外国籍市民の数が増えており、しかもその8割以上が将来的にも可児市に住み続けたいという希望を持っています。目下のところ、子どもの教育など、いろいろな課題はありますが、将来的に外国籍市民が市内のゴルフ場でゴルフを楽しめるような地域環境をつくっていききたいと思っています。

奥ノ木 川口市の在留外国人数は、全国の市区町村でも3番目に多いといわれています。現在、浮間ゴルフ場で外国人がプレイするというケースはほとんどありませんが、この貴重な自然空間を、外国人を含め、川口市で暮らす全ての私たちの住みよさや安全・安心につながるように、活用を進めることが大事だと思っています。



細川 珠生
政治ジャーナリスト

ゴルフ場が果たす地域貢献の形

細川 ゴルフ場という施設を、地域のために活用していくということですね。

奥ノ木 その通りです。実は、1都3県を対象にした「本場に住みやすい街大賞2020」において、川口市は1位となりました。都心へのアクセスの良さや充実した商業施設も重要ですが、こうした緑の空間も住みやすさには欠かせない要素です。今後も、市民のために幅広い活用をしていきたいと考えています。

清藤 ゴルフ場が果たす地域貢献としては、災害対策もあります。香南市は南海トラフ地震への対策が重要課題となっていますが、土佐カントリークラブとは、大規模災害が起きた時、避難住民の受け入れのために施設を開放することなどを定めた協定を結んでいます。

富田 可児市でも、市内八つのゴルフ場と災害時のゴルフ場施設利用協定を締結しました。また、地域の皆さんの親睦会をゴルフ場のクラブハウスで行うケースも増えています。以前に比べて、ゴルフ場と住民との距離がかなり縮まっていると思いますね。

上野 ゴルフ場に対する市民の理解を得るためにも、行政が必要な規制を掛けることも必要です。かつて、ゴルフ場の新設が計画されていた時期もありましたが、市としてはこれを許可せず、業者から土地を買い戻したこともありまます。また、あるゴルフ場に対しては、農業をできるだけ使用しないことを定めた協定を結んでいます。こうした市の姿勢も、ゴルフ場が地域との信頼を高める上で重要になってくると考えています。

細川 ゴルフ場が立地する自治体が抱える課題、取り組みについて幅広くお話を聞きしました。ゴルフ場への支援、市民へのゴルフ振興の取り組みもさることながら、ゴルフ場という広大な空間・施設を、いかに地域に還元していくかという点からもさまざまなご意見をお聞かせいただきました。改めてゴルフ場という施設を持つ公共性、そして都市自治体の役割の重要性について実感させられた次第です。

今後も市民の理解を得ながら、ゴルフ場、そしてゴルフそのものの振興に力を尽くしていただきたいと思っています。本日はありがとうございます。

(令和2年1月22日、全国都市会館にて開催)

本コーナーは隔月掲載となります。次回は5月号に掲載予定です。

